

業科目名[英語名]

環境教育・ESD入門 I [Basic Seminar of Environmental Education and ESD I]

担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]

萩原 豪[099-285-3757]

E-Mail	k6219828@kadai.jp	受講対象	全		
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 3分野	開講期	前期火曜4 単位等 2
共同担当教員名					

教育目標のキーワード

視野・判断力・探求能力/コミュニケーション能力と相互理解

学習目標(学生の達成目標)

本講義では環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、環境問題について多角的な視点から考察していく機会を共有します。その中で受講生が自ら行動し、自分の眼と耳と足で、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術を習得することを最終目標としています。受講生には積極的な参加（単なる出席ではなく発言すること）を求めます。なお、情報発信の訓練として、課題等（A4用紙1枚程度）を最低2回提出してもらいます。

授業概要(目的・内容・方法)

本講義は前後期連続の、少人数演習形式（原則として受講者数35名以内）で行います。

受講生は必ずひとつのワーキンググループ（WG）に参加し、グループごとに実践プロジェクトを目指した研究活動を行ってもらいます。WGはNESCUSHORTと銘打って、①自然、②資源・エネルギー、③社会（企業）、④地域、⑤大学、⑥焼酎、⑦温泉、⑧ラーメン、⑨トイレ、の9つを設定しています。

各WGでは具体的な研究課題を決め、問題の背景や現状等を整理・考察していきます。前期はWGで提案する実践プロジェクトの企画書を作成した上で、プレゼンテーションをしてもらいます。この実践プロジェクトは「お金をかけず、誰でも簡単に手軽にできる」ことを前提条件とします。

例えば、⑤大学のWGでは、大学をエコ化することを大きな枠組みとして掲げた上で「ゴミ分別」について検討することができるでしょう。この場合、環境教育やESDの視点から「ゴミ分別」について考えるだけではなく、その背景として「どうしてゴミ分別が必要なのか」というところから考えることができます。最終的に「ゴミ分別」をとりまく状況を整理した上で、どのようにすればよいのか、ということを提案していってもらいます。（これはあくまでも一例です。）

授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)

第1回目の授業はガイダンスを行い、履修希望者の登録作業を行います。その際、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。

- ・ガイダンス
- ・「環境」を取り巻く問題に関するグループディスカッション（基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です）
- ・プロジェクト研究（グループ毎）
- ・中間報告
- ・最終プレゼンテーション
- ・企画書作成

受講要件	本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。		
評価基準および方法	出席20%、授業態度20%、課題等提出物30%、グループワーク30%で総合的に判断します。出席が総授業数の3分の2未満の場合、または最終レポートの提出がない場合は、評価対象外とします。		
教科書	教科書は使用しません。必要な資料は毎回の授業で配布します。課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	参考書	阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂、2005年。日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、日常生活に関するなどを幅広く取り上げていきます。
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【オフィスアワー】毎週木曜日 4時限目 基本的にメールでの対応を主としますが、直接の面談も歓迎します。オフィスアワーでの面談については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください（ダブルブッキングを避けるため）。	その他	授業運営の関係から、受講者数は35名以内に制限します。後期の「環境教育・ESD入門（2）」を継続して履修することを条件とします。履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても、第1回目の授業に出席しない場合、履修登録は無効とします。また履修人数が多い場合は抽選とします。第1回目の授業をやむを得ず欠席する場合（もしくは欠席した場合）は、第2回目の授業前にメールで連絡を入れてください。詳細については稻盛アカデミーのウェブサイトを参照してください。（ http://www.inamori-academy.jp ）